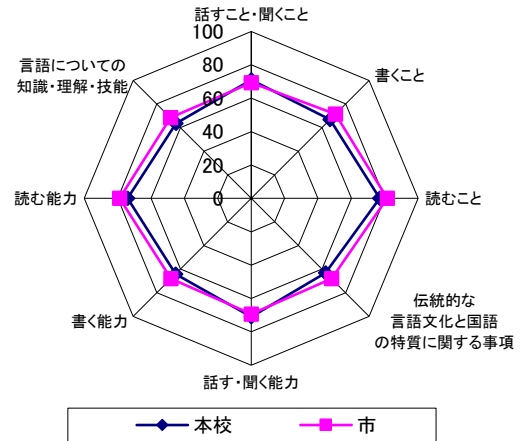


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.0	69.3	73.4
	書くこと	66.8	71.3	74.6
	読むこと	77.0	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.1	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	71.0	69.3	73.4
	書く能力	64.1	68.1	71.7
	読む能力	74.0	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	63.6	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

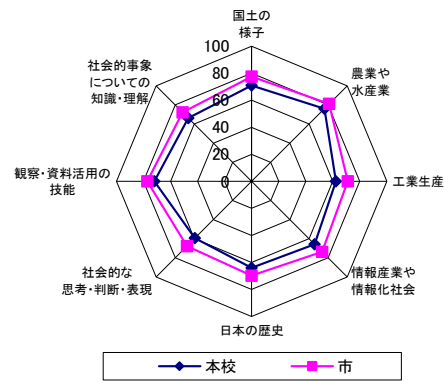
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市の平均を上回った。</p> <p>○司会の役割や計画的な話し合いについての理解を問う問題は、市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●話し方の工夫について聞き取る問題では、市の平均正答率を2.2ポイント下回っている。</p>	<p>・朝の会のスピーチなどで、全体の前だけでなく、ペアで話したり、グループで話したりする機会を設けて、話したり聞いたりすることに慣れさせる。</p> <p>・司会の役割を確認したり、誰もが司会を経験したりするなどして、スムーズに話し合いに取り組めるようにする。(学年に応じた話し方・聞き方の枠があるとよい)</p>
書くこと	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○自分の意見を明らかにして書く点については、市の平均正答率と同程度の正答率であった。</p> <p>●必要な資料を読み取り、それを文章に表す問題については、市の平均正答率を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・作文を書く機会を作り、与えられたテーマについて書いたり、相手や目的など指示された条件で書いたりするなどの活動を取り入れる。</p> <p>・各学年の初めに、作文指導の基本を復習する機会を設ける。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○物語文の読み取りにおいて場面の描写から登場人物の心情を読み取る問題については、市の平均正答率を2.6ポイント上回った。</p> <p>●説明文の内容を的確に読み取ることに苦手意識が見られ、どの問題も市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・国語説明文の文章構成図の読み取りに慣れさせる。</p> <p>・文章構成図を生かしてまとめたり、指示語や段落のつながりなどを意識して読み取ったりする活動を取り入れる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○「漢字の読み」は定着しており、どの問題においても市の平均正答率を上回っていた。</p> <p>●漢字の書き取りについては、全ての問題で市の平均正答率を下回った。特に、「移住」といった日ごろ使われる機会の少ない漢字についての正答率が低かった。</p> <p>●適切な敬語を選ぶ問題についての正答率が、市の平均正答率を20ポイント以上下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、6年生だけでなく5年生までの漢字についても折に触れて練習させたり、ミニテストなどをおこなったりして復習を継続していく。</p> <p>・尊敬語や謙譲語について、習った単元だけで使うのではなく、それ以外の機会でも話したり、問題を解いたりするようにする。</p>

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	70.9	77.5	74.0
	農業や水産業	76.0	81.1	73.7
	工業生産	62.4	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	65.9	73.7	63.2
	日本の歴史	64.0	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.4	67.7	63.1
	観察・資料活用 の技能	72.0	77.3	75.5
	社会的な事象口についての知識・理解	66.4	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

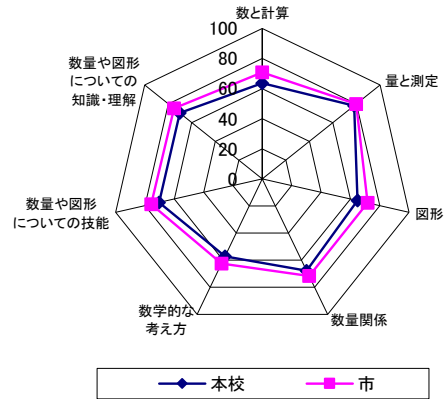
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○森林を守るための間伐についての理解が83.5ポイントと高く、市の平均正答率を0.6ポイント上回った。</p> <p>●防災マップや会話文を参考に自然災害が起きた際の自助の大切さについて考え、表現する問題の正答率が6.9ポイント市の平均正答率を下回った。</p> <p>●日本の周辺の海洋名や国旗の理解が市の平均正答率に比べ6ポイント以上低かった。</p> <p>●気候の様子について説明にあてはまる雨温図と都市の位置を判断する問題の正答率が市の平均正答率に比べ8ポイント以上低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を活用する機会を増やしていく。授業の中でも関連する事柄は地図帳で確認できるようにする。 ・グラフなどの資料の数値を正しく読み取る力を高めたい。算数の授業で基礎的な力を高めていきたい。
農業や水産業	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○米の生産がさかんな地域について資料を読み取る問題では95.3ポイントと市の平均正答率を1.4ポイント上回った。</p> <p>●日本の食料生産が抱える課題について資料をもとに考える問題の正答率が市の平均正答率を10.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに、気付いたことや考えたことを文章化し、発表する場面やお互いの考えを伝え合う機会を授業の中で増やしていく。 ・総合的な学習や食育などで、自分たちの食べているものと農業や水産業が直接つながっていることが実感できるようにしていく。
工業生産	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>●化学工業の製品について理解する問題の正答率が市の平均正答率に比べ4.4ポイント下回った。</p> <p>●工業地帯の立地について資料を読み取り考える問題の正答率が市の平均正答率に比べ13ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業生産と工業地域の学習をする際には工業の種類や性質について十分に時間をとって確認をするようにしていく。 ・資料からの情報をもとに考えをもつ問題に課題がある。どの分野でも継続的に続けていく。
情報産業や情報化社会	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○身の回りのメディアについて理解しているかを問う問題の正答率は、ほぼ市の平均正答率と同程度であり、全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●医療における情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考える問題の正答率が市の平均正答率に比べ13ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアに慣れ親しみながら活用することができている。今後も様々なメディアがあることを確認しながら活用していくようにしていきたい。 ・資料に書かれている文や説明と、グラフや表などに書かれている情報を組み合わせる判断する力を高めたい。資料に触れる機会を多く増やしていく。
日本の歴史	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○国学についての理解を問う問題の正答率が高く、市の平均正答率を6ポイント上回った。</p> <p>○竪穴式住居の理解理解を問う問題の正答率が高く、市の平均正答率を2.3ポイント上回った。</p> <p>●大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとに考えて表現する問題での正答率が市の平均正答率を8.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに考えて表現する力を高めたい。自分の思ったことを表現する機会を増やしていきたい。 ・殖産興業などの難しい用語の意味する事象がどんなものなのか、具体的に説明するようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.6	70.8	65.9
	量と測定	78.0	79.9	77.0
	図形	64.9	71.8	74.6
	数量関係	67.7	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	57.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	70.4	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	70.2	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

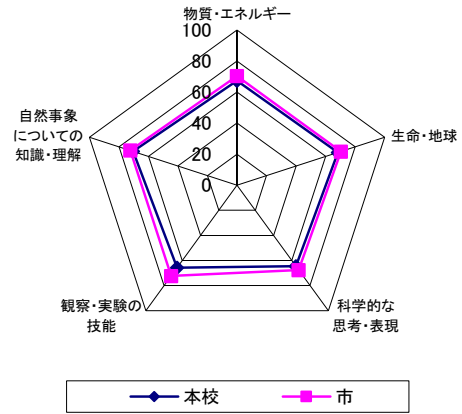
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○「図を使って分数の除法の文章問題に合った式を選ぶことができる」は市の正答率を上回った。</p> <p>●「小数の計算・整数のなかま分け」については11ポイントほど市の平均正答率を下回った。また、「分数の計算」については「真分数÷真分数で分数どうしをかける通分する計算ができる」において市の平均正答率を19ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的、基本的な計算の習得のために、朝の学習や毎日の宿題を通して繰り返し計算問題に取り組んでいく。</p> <p>・習熟度別学習を生かし、基礎基本の定着を図るとともに、発展的な問題に取り組んでいくようにするなど、個に応じた指導の充実を図る。</p>
量と測定	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○「図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶことができる」は3.4ポイント市の平均正答率を上回った。</p> <p>●「面積と体積」の内容において、ひし形の面積の公式に関する問題について5ポイント、直方体の複合図形の体積や、式からどの図形の面積を求めているのか選ぶ問題についての正答率が、33ポイント近く市の正答率を下回っている。</p>	<p>・面積や体積の求め方については、ただ公式を復習するだけではなくなぜそのような求め方になるのかを復習し、基本的な問題に取り組ませていくとともに、複合図形を扱うなど、数学的な思考を伴う問題に取り組ませ、さらに力をのばしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○対称な図形において「対称の軸について理解している」は0.9ポイント「点対称な図形の対応する点について理解している」では0.1ポイント市の正答率を上回った。</p> <p>●「正多角形・合同・立体」の内容では「五角形の内角の和を求める式を選ぶことができる」において市の正答率を13.9ポイント下回った。</p>	<p>・多角形の内角の和を求めたり、円の直径から演習を求めたりする基本的な問題に繰り返し取り組ませ、定着を図る。</p> <p>・作図について基礎的な力を身に付けられるよう、三角形の作図の三つの方法に繰り返し取り組むようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○文字の式において「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる」について1.1ポイント市の正答率を上回った。</p> <p>●「比例と反比例」において「比例の関係をxとyを使って式に表すことができる」は2ポイント、「反比例についての表を読み取り、表に当てはまる数を求めることができる」に6.8ポイント市の正答率を下回った。</p>	<p>・割合や比の問題について、題意を正しく読み取り、数量の関係を図や数直線に表して考えるなど、数学的な思考力の向上を図る。</p> <p>・比例については、2つの数量を表に表して読み取り、関係を式に表したりするだけでなく問題解決的な場面の課題にも取り組ませることで文字を使った式よさに気付かせ、活用していけるようにする。</p>

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.3	70.3	69.0
	生命・地球	68.3	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	64.6	67.5	66.4
	観察・実験の技能	65.8	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	70.4	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の正答率をわずかに下回った。 ○「ものの燃え方」と「水溶液の性質」の単元についての正答率は、市の平均正答率より高い結果となった。 ●「電流のはたらき」に関する問題の正答率は、すべて市の正答率より10ポイント以上低い結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生での学習内容が定着していないことから単元ごとの学習で終わってしまっているためことが原因と考えられる。単元同士を関連付けた授業展開を教師が意識していくことで、児童が既習内容を確認できるようにさせ、定着を図る。 ・授業展開の中に、準備→根拠に基づいた予想→結果→考察という流れをていねいに扱っていくことで、児童の観察・実験の技能を高めていく。 ・実験の内容だけではなく、実験ごとのキーワードをしっかりと押さえていく。
生命・地球	<p>平均正答率は市の正答率をわずかに下回った。 ○「月と太陽」の単元についての正答率は、市の平均正答率より高い結果となった。 ○短答式の問題についての正答率は市の正答率を上回っている。 ●記述式の問題について、無回答率が市の平均と比べてやや高い。 ●実験や観察の条件をそろえるという問題での正答率が低い傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物や映像資料を用いて、児童の印象に残るようにする。 ・各単元の重要な言葉をキーワードとしてしっかりと押さえていく。 ・振り返りやまとめを自分の言葉でまとめることを継続していくことで自分の言葉で書くということへの抵抗を減らしていく。

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布し、自分で計画を立てて学習に取り組むように指導している。また、家庭学習強化週間を6月と2月に設け、家庭学習を定着できるように促してきた。	1～2年生は、「宿題はきちんとやっていますか」に肯定的に回答した児童の割合は94%以上である。3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は82%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は56%～73%と、学年によってばらつきが見られる。
授業中のまとめ、振り返りの時間の確保。	授業の最後に行うまとめを児童が自分の言葉でまとめるようにする。各学級の実態に応じて、キーワードを示すなどの工夫をして実践していく。また、振り返りについても、具体的な授業の場面を思い起こさせたり、理解できたこと、できなかったことを自分でしっかりと振り返らせたりしている。	・どの教科においても、記述式での無解答率が市の平均より少し高い結果となってしまった。短答式に関する無解答率は、問題によって差がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・記述式での無解答率が高い傾向が、12月の市の調査結果でも見られ、改善に至らなかった。次年度も、まとめ、振り返りの時間を確保すること、さらに、キーワードを指定して児童自身が自分の言葉で表現できるようにすることを継続していくことで、自信をもって解答できるようにさせていきたい。
- ・家庭学習については、学年により差が大きく、昨年度の傾向と同じような結果であった。また、家庭学習の時間においても、各学年の目標時間に達していない児童が見られることから、宿題の量について学年で統一し、児童の実態に合った内容となるようにしていく。また、家庭学習の定着の観点から、保護者への啓発をさらに促していく。